

College Handbook 1998年版から観察される アメリカにおける入学者選抜方法の特徴 —大学の設置者/役割の類型に基づく解析—

—大学入試センター 石岡 恒憲, 清水 留三郎—

1 はじめに

College Handbook は、全米約1,350の大学、および約2,100の高校が加盟する College Board が編集し、加盟大学の入学者選抜・教育課程について大学選択の指針となるよう網羅的に書かれたものである。編集元の College Board は高校と大学の接続を円滑にするための教育団体であり、さまざまなサービス事業を提供している。加盟大学に共通する入学試験SATの主催者でもある。

さて College Board が1988年秋におこなった調査によれば、「大学が『非常に重視する』選抜基準」は、大学の設置者（州立/私立）、および役割（博士課程併設の有無、一般教育/専門単科の別）によらずに、第一位が高校成績で、第二位が共通テストであるという。

しかしながら College Handbook には、「大学が『非常に重視する』選抜基準」だけでなく、各大学における選抜基準が、その重要度に応じて3段階で示されている。したがって、College Handbook のデータを用いれば、本来、「大学が『副次的に重視する』選抜基準」が何であるかもわかるはずである。

また、先の調査から現在までには、約10年が経過し、その間、SATは1995年にテスト内容や得点尺度などについて大幅な変更が行われた。名称も（イニシャルは変わらないが）SAT I (Scholastic Assessment Test I)と改称した。（ちなみにアチーブメントテストの方はSAT IIと命名した。）

そこで本稿では、College Handbook 1998年版のデータを用いて、現在、大学がどのよ

うな選抜基準を重視しているかをとらえ直し、それら選抜基準の関係を明らかにすることを試みる。また大学の設置者および役割によって、それぞれSAT I 得点、および合格率の分布がどのようになるのかを図示する。これにより、大学の設置者および役割の形式的な違いだけでなく、(SAT I 得点や合格率が学力指標として適切であるか、という議論はあろうが) 学力的な違いがわかるようになる、と思われる。

なお本稿で解析の対象とするのは、約3,200ある大学のうち、入学と卒業に関する統計を記載している大学（入学者選抜を行なう大学であると思われる）の1,267校とする。その内訳は4年制大学1,172校（4年制大学1,735校の約68%）、2年制大学95校（2年制大学1,492校の約6%）である。

2 選抜基準のクラスタリング

College Handbook では、以下に示す各大学の選抜基準を、重要度にしたがって三つ星から一つ星までで示している。各星に含まれる選抜基準は複数の場合もあるし、一つもない場合もある。

1. 高校での成績 (school record)
2. 共通試験の成績 (test scores)
3. エッセイ (essay)
4. 特別な才能 (special talents)
5. 面接 (interview)
6. 推薦状 (recommendations)
7. 高校での活動 (activities)
8. 宗教/社会活動 (religious affiliation/commitment)

三つ星に含まれる選抜基準項目を5点、二つ星に含まれる選抜基準項目を2点、一つ星に含まれる選抜基準項目を1点とすれば、各大学ごとに8つの選抜項目に対して0点～5点を付与した行列を作成することができる。このとき、8つの選抜項目の互いの近さをユークリッド距離で計り、Ward法にてクラスタリング・ツリーを作成する(図1)。選抜基準項目の点数をそれぞれ3点、2点、1点としないのは、この配点でクラスタリングを行なった場合に、二つ星、あるいは一つ星に含まれる選抜基準項目の近いもの同士でクラスターができてしまうことによる。三つ星に含まれる選抜基準項目は、他の2つより重視されるべきであると考えた。

4年制大学の結果を図1(a)に、2年制大学の結果を図1(b)に示す。

4年制大学(図1(a))においては、以下のことがみてとれる。

- 高校での成績(school record)と共通試験の成績(test scores)との関係が強い。すなわち、高校での成績を重視、あるいは軽視している場合は、試験の成績も同様に重視、あるいは軽視する傾向にある。
- 次に関係の深いのが高校での活動(activities)と推薦状(recommendations)である。
- 宗教/社会活動(religious affiliation/commitment)は、他の7つの選抜基準とほとんど関係がない。

2年制大学(図1(b))においては、以下のことがみてとれる。

- 面接(interview)と推薦状(recommendations)の関係、および高校での成績(school record)と共通試験の成績(test scores)との関係が同程度に強い。
- エッセイ(essay)と高校での活動(activities)も、それに次いで関係が深い。
- 宗教/社会活動(religious affiliation/commitment)は、4年制大学の場合と同様に、他の7つの選抜基準とほとんど関係が

ない。

3 大学の設置者/役割の類型に基づく解析

本節では4年制大学をその設置者/役割にしたがって以下のように分類し、各類型ごとの統計解析を行なう。

- (a) 州立(公立)・博士課程併設;少なくとも一つの専門教育分野で博士課程をもっている大学(161校;14%)
- (b) 州立(公立)・その他;博士課程を全く持たない大学(182校;15%)
- (c) 私立・博士課程併設;少なくとも一つの専門教育分野で博士課程をもっている大学(120校;10%)
- (d) 私立・一般教育;8つの一般教育分野(民族学・言語学・文学・生命科学・数学・物理科学・心理学・社会科学)のうち少なくとも7つの分野で学士号を与え、かつ職業教育専門分野(農業・経営学・商学・教育学・教師教育学・工学・健康科学・保健学・家政学・図書館学・軍事科学・公共福祉学・貿易産業学)は3分野までしか持たない大学(442校;38%)
- (e) 私立・その他;(c), (d), (f)以外の私立大学(106校;9%)
- (f) 私立・専門単科;キリスト教学・芸術・経営・工業・健康科学・音楽・看護学・薬学・軍事科学・教師養成・神学・ユダヤ教学の単科大学(161校;14%)

設置者/役割の類型ごとの太学数、およびSAT I得点発表大学数を、表1に示す。

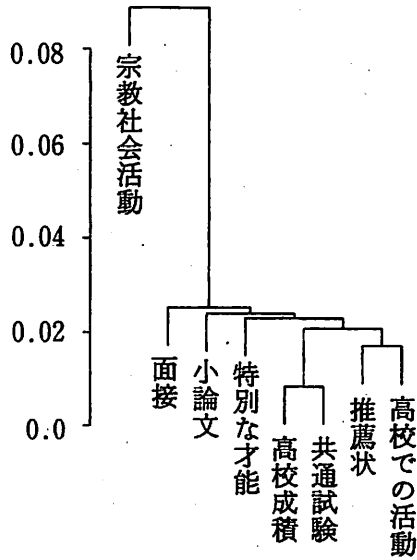
この分類は、College Boardが1988年秋におこなった「大学が最も重視する選抜基準」についての調査の際に用いた類型に準拠している。

3.1 選抜基準項目の比較

設置者/役割ごとにどの選抜基準を重視するかについて分析する。

2節での手順と同様に8つの選抜基準に対

(a) 4年制



(b) 2年制

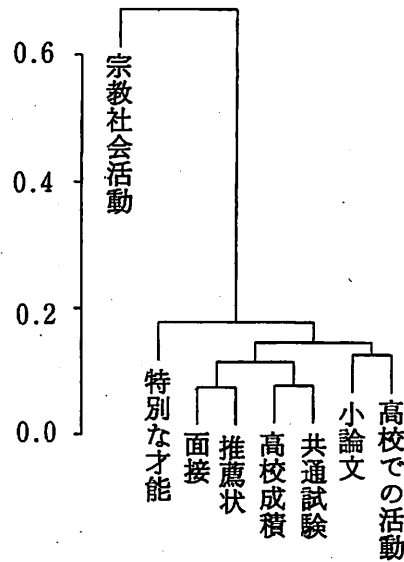


図 1: 選抜基準項目のクラスタリング

表 1 SAT I 得点発表大学数 (4年制大学)

類型/役割	大学数*1	SAT I 得点 発表大学数 (百分率)
州立・博士課程併設	161	117(72.7%)
州立・その他	182	115(63.2%)
私立・博士課程併設	120	103(85.8%)
私立・一般教育	442	329(74.4%)
私立・その他	106	74(69.8%)
私立・専門単科	161	92(57.1%)
合計	1,172	830

*1: College Handbook に入学と卒業に関する事項を記述している大学数; 競争選抜を行なう大学の数と考えられ、4年制大学全体の約68%である。

して、三つ星に含まれる選抜基準項目を5点、二つ星に含まれる選抜基準項目を2点、一つ星に含まれる選抜基準項目を1点とし、各類型ごとに8つの選抜基準のスコアを示したのが図2である。

4年制大学のみを対象とする。横軸は選抜基準を示す。これより大学の類型にかかわらず、第1位が高校での成績で、第2位が共通

試験の成績であることがわかる。College Board が1988年秋におこなった調査では「最も重視する」選抜基準についてのみ行なっているが、その結果についても上述した1998年の場合と同じである。

また、私立・専門単科では、3.エッセイ、4.特別な才能、5.面接、6.推薦状が、第2位の共通試験の成績に準ずる扱いであることがわかる。

3.2 合格率の比較

4年制大学をその志願者の合格率に従ってc0からc5までに分類した6つのカテゴリーに対して、そのカテゴリーに属する(4年制の)大学数を設置者/役割の類型ごとに示したのが図3である。

分類の内訳は表2の通りである。(c0+c1), c2, c3, c4, c5に含まれる大学の数が、可能な限り等しくなるように分けた。合格率の低い箇所をc0とc1に更に分けたのは、以下の理由による:

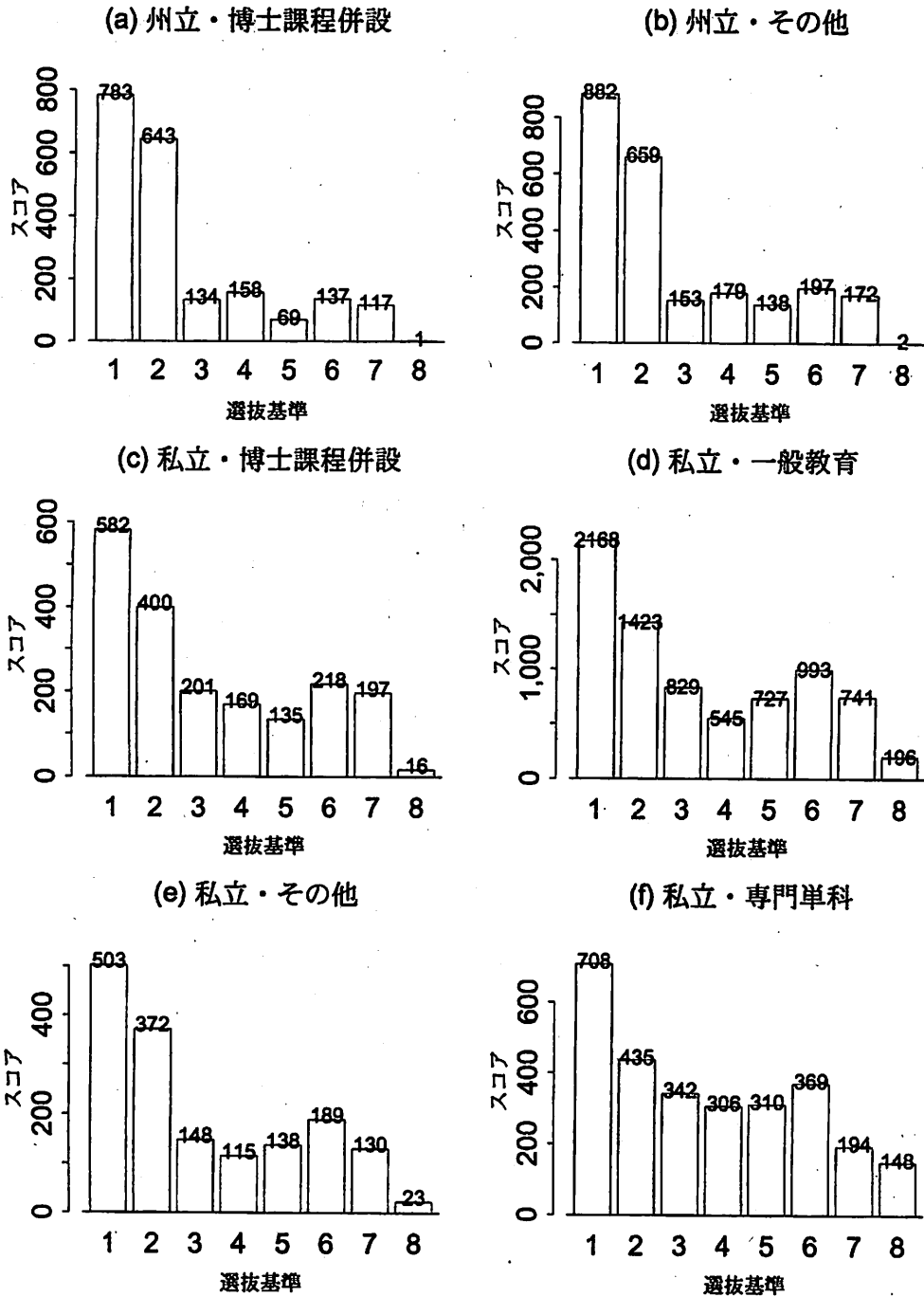


図 2: 大学が重視する選抜基準 (大学類型別); 1:高校での成績, 2:共通試験の成績, 3:エッセイ, 4:特別な才能, 5:面接, 6:推薦状, 7:高校での活動, 8:宗教/社会活動

表2：合格率の分類

カテゴリー	合格率	大学数
c0	40%以下	69
c1	41%— 62%	166
c2	63%— 74%	245
c3	75%— 81%	241
c4	82%— 87%	229
c5	88%—100%	223
合計		1,172

- 他のカテゴリーに比べ、値の範囲が大きすぎると思われること、
- 全体で解析すれば合格率40%以下は外れ値として取り扱われ、これを別にすることが意味があると思われたこと
(c0+c1), c2, c3, c4, c5の大学数がほぼ同数であることに着目すれば、これより以下のことが読みとれる。
- 州立・博士課程併設(a)では、(博士課程併設であるにもかかわらず) 合格率が低くない。c2の頻度が最も大きく、強いていえば「やや合格率が低い」といった程度である。州立大学では受験生の大半が州内に限られ、競争は緩和されているのではないかと考えられる。
州立・その他(b)についても、同様のことがいえる。
- 私立・博士課程併設(c)は、一般に言われるところの有名大学が多く、合格率が低めであることが予想された。実際、(c0+c1)が残り(c2, c3, c4, c5)の倍であるので、合格率が低めであると言ってよいであろうが、c2, c3, c4, c5の度数はほぼ同じであり、合格率の高い大学も少なくないことがわかる。
- 私立・一般教育(d)は州立・その他(b)に近く、私立・専門単科(e)は州立・博士課程併設(a)に近い。いずれも(c0+c1), c2, c3, c4, c5の

大学数がほぼ同数であり、合格率が低めのところから高めのところまで一様に散らばっていることがわかる。

3.3 SAT I 得点の比較

SAT I 得点の低い方から高い方までs1からs5までに(そこに含まれる大学数が可能な限り等しくなるよう)分類した5つのカテゴリーに対して、そのカテゴリーに属する(4年制の)大学数を設置者／役割の類型ごとに示したのが図4である。

s1—s5の大学数がほぼ等しいことに注意すれば、これより以下のことが読みとれる。

- 私立・博士課程併設(c)では、右上がりのグラフが得られ、SAT I 得点の高いグループが多く含まれている様子がわかる。
- 一方、州立・博士課程併設(a)では、s1からs4まで右上がりのグラフが得られながらも、(最も高い) s5で急激にさがっている。
これは地元で州立・博士課程併設校がない地方の特に優秀な学生の多くが、これ以外の種類の大学に多く進学していることを示唆していると思われる。
- 州立・その他(b)では、(a)とは逆に右下がりのグラフが得られる。
- 私立・一般教育(d)では、SAT I スコアが低めのところから高めのところまで一様に散らばっている、すなわち、私立・一般教育校のレベルが最も多様であることがわかる。
これはこの類型に属する大学数が329と多く、全4年制大学数830の約40%を占めていることに起因すると考えられる。すなわち、単に全体の様子を反映しているに過ぎず、当然の結果ともいえる。

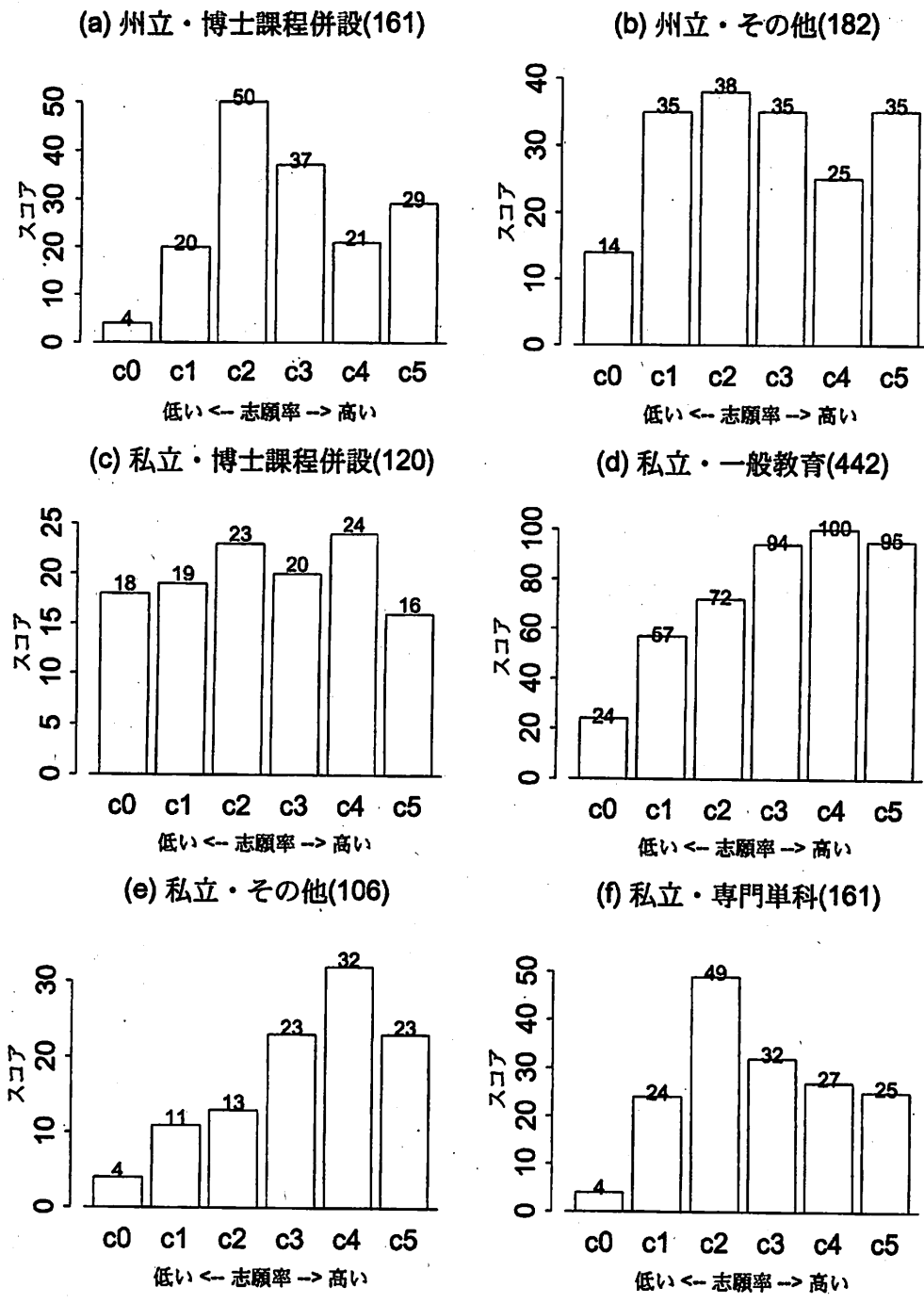


図 3: 合格率の比較 (大学類型別); c0:0%-40%, c1:41%-62%, c2:63%-74%, c3:75%-81%, c4:82%-87%, c5:88%-100%.

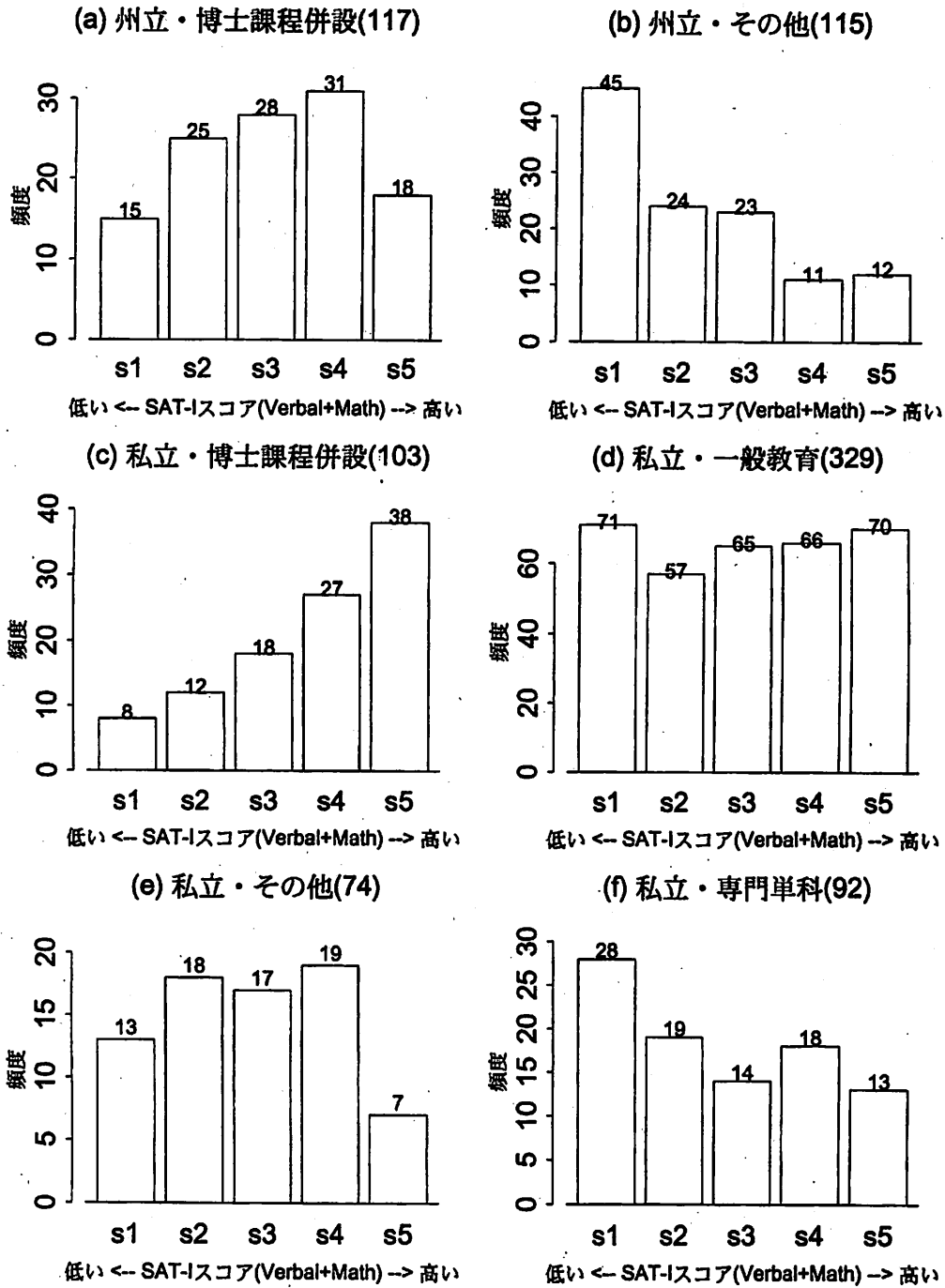


図 4: SAT I 得点の比較 (大学類型別) ; s1:0-995, s2:996-1050, s3:1051-1105, s4:1106-1185, s5:1186-1600

- 私立・専門単科(f)は、州立・その他(b)と同様である。

4 まとめ

設置者/役割ごとに4年制大学を分け、どの選抜基準を重視するかについて調べた結果からは、大学の類型にかかわらず、第1位が高校での成績で、第2位が共通試験の成績であることがわかった(3.1節)。これは約10年前の調査結果と変わらない。

また、SAT I得点を調べた結果からは、

- 私立・博士課程併設では、SAT I得点の高いグループが多く含まれていること
- 地元で州立・博士課程併設校がない地方の特に優秀な学生の多くが、これ以外の類型の大学に多く進学していると思われることがわかった(3.3節)。

参考文献

Hunter M. Breland, James Maxey, Gall T.

McLure, Micheal A. Boatwright, Veronica L. Ganley, Laura M. Jenkins (1995): *Challenges In College Admissions*, — A Report of a Survey of Undergraduate Admissions Policies, Practices, and Procedures —, American Association of Collegiate Registrars and Admissions officers.

The College Board(1988): *Annual Survey of Colleges*, 1989-90.

The College Board(1998): *The College Handbook*, 35th edition, Henry Holt and Company, Inc., New York.

The College Board, SAT Program (1997): "Common Sense about SAT Score Differences and Test Validity," Research Notes, RN-01, June.

Thomas F. Donlon(ed.) (1984): *The College Board Technical Handbook for Scholastic Aptitude Test and Achieve-*

ment Tests, College Entrance Examination Board, New York.